

不撓不屈

ふとうふくつ

法改正が後押し

東京メトロ丸ノ内線新宿御苑前駅から徒歩で数分。オフィスや店舗の並ぶ中にある阿部興業本社兼ショールーム。ここには現在の主力である木製防火ドアが多数展示されており、来場者が絶えない。

人気の高い防火ドアの第1号ができたのは、平成に入ったばかりの頃。当時建築法の関係で鉄製ドア以外を防火戸に認可

阿部興業

③

防火設計が高評価

していなかった中で、阿に金属は使わない」「60部興業の当時の社長、阿分の耐火性能を持たせ部清國を筆頭に、開発に「半年で開発」というもの。開発陣は当初、

開発と並行して、清國木材に薬剤を塗って不燃化を目指したが薬剤と加工の技術面で納得せず断陳情を提出した。日米間の貿易不均衡解消を目指し、包括通商法スーパー301条が発令され、日本は米国産木材の輸入促進の一環として同省検定合格品のみ木製防火戸として認定すると法改正。開発に拍車がかかった。

こそって開発

開発条件は「ドア本体

「断熱材の性能は重量に比例せず、試作品は普

段使いには重たすぎる。今考えてみれば認定を取

が激化していたといい、業職を経験する。顧客の

顧客ニーズ具現化に全力



東京・新宿の本社ショールームに並ぶ多彩な木製防火ドア

るために必死だに衝撃を与えた。当時を「たのだから」知る商品・物流部長の村と、当時の開発松康弘は「初めは『本陣から資料を受に火を防ぐのか』と半信け継いだ商品開発半疑だったお客さまが、一課長の常盤我々が試験データを説明幸司はみる。現するにつれて、性能の高に認定取得以降さを実感してくださるよすぐに、試験品うになる。それだけ、開と同等以上の性能を持つ軽い断熱材を使ったドアも製品化してある。

挑戦の土壌

当時こそって同社の開発担当者はほとんどが各地の支店で営

の2015年に向けて、社内では限られたメンバーによって、ドアの既成概念を覆すような製品が

(敬称略)